

2025年度募集「重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成」 助成団体選考結果のご報告

概要

募集対象	重い病気により長期入院や長期療養をしている子どもの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動。
募集期間	2024年6月24日～2024年9月1日
応募数	32件
採択事業数	6件
助成金総額	計 10,820,450円
活動期間	2025年4月1日～2026年3月31日
助成選考委員会	本テーマに関して専門的知見を持つ5名の助成選考委員（当財団理事1名と外部有識者4名）で組織する助成選考委員会にて、当財団の助成目的に基づき、厳正な審査を行った。

選考委員長より

本助成は、重い病気により困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学びを支援する事業を対象としたもので、今回で10回目の実施となります。助成選考委員会にて厳正に審査を行い、今年度は6件を採択しました。助成金総額は10,820,450円です。

今回の審査でも例年通り、以下の観点を重視しました。

- モデル性:他の団体のモデルとなりうる効果的なプログラムやコンテンツ、ツール、ノウハウ等があるか。
- 地域との連携:病院や学校などとの連携により、活動の実効性が高いか。
- 継続性:助成終了後の事業継続の見通しがあるか。
- (2024年度助成団体について)2024年度の活動からの発展性があるか。

事業の目的と展開が明確で、事業の実施と発信により幅広い方々への波及効果が見込まれる団体を助成対象としました。

今年は、他地域への展開などを見据えた長期的な計画の申請が多く、より多くの子どもたちに学びを届けようとする発展性が感じられました。各団体で評価された点は、後の一覧にて述べています。

今回採択に至らなかった申請については、概ね以下のような傾向が見られました。

- 本助成の主旨・支援対象と合致しなかった。
- 実態の把握不足、課題の捉え方が一般的など、解決すべき課題の焦点が絞り切れていなかった。
- 解決したい課題と解決方法(実行項目、費用、スケジュール)の一貫性が読み取れなかった。
- 事業内容にモデル性が認められなかった。

採択された団体の皆様には、本テーマにおいて先駆的な活動を実践している団体として、よきモデルとなっただけを期待しています。また、当財団では、助成団体をサポートするだけでなく、本テーマがいっそう社会的に認知され、関心が広がることに寄与する活動や、団体同士の情報共有・学びあい・連携に資する取り組みを、積極的に進めていきたいと考えています。

2024年12月
公益財団法人ベネッセこども基金
理事・助成選考委員長
耳塚寛明

助成団体及び事業内容

※団体名 50音順

	団体名	事業名	助成額(円)	所在地	選考にあたっての 評価点
1	特定非営利活動法人 エゴノキクラブ	小児がんの子どものリーダー シップ育成事業	1,996,050	東京都	専門性が高く、課題が的確に把握され、具体的 な計画となっています。小児がんの晩期合併症に よる知的能力の変化に対する学校での合理的配 慮を進めるための計画として、実行可能性が高い ことを評価します。
2	認定特定非営利活動 法人 シャイン・オン・キッズ	心のケアを軸とした長期入 院治療を経験した子ども達 への社会復帰支援	1,999,600	東京都	小児がんで長期入院治療を経験した子どもたちの 社会復帰支援に際して、治療以外のサポートへ の道筋がつけられることを期待します。 助成金に加えて多様な財源を活用し、持続性を 意識した計画となっている点も評価します。
3	一般社団法人 Child Play Lab.	入院中の小学生を対象に した、ライフアドベンチャー教 育のモデルづくりと検証事業	2,000,000	東京都	実態調査を通して、入院中の子どもとその家族の 実態や潜在的なニーズを明らかにする計画となっ ています。また、ライフアドベンチャープログラムに 参加した子どもたちが、退院後に切れ目のない支 援へつながるモデル地域づくりに期待します。
4	特定非営利活動法人 北海道子どもホスピスプロ ジェクト	LTCの子どもと家族の状況 を学びで改善する仕組みづ くり～他地域展開～	1,057,000	北海道	2024年度助成事業を自主事業化し、助成金は 広い北海道内の他地域で体験を提供するエリア 展開に活用する点を評価します。各拠点で関係 構築を行うことで、発展性を高め、モデル的な取 組みになることを期待しています。
5	特定非営利活動法人 ポプルワークス	病院や自宅等で療養生活 を送る子どもたちの内面を豊 かに育む、映像制作ワーク ショップ実施事業	2,000,000	東京都	療養生活を送る子どもたちの退院後の課題に着 目し、地域活動を意識したプログラム導入を評価 します。映像制作ワークショップを通して、子ども たちが地域とつながりを持つ機会になることを期待 します。
6	特定非営利活動法人 にこり	法泉寺けあらば(医療的ケ ア児とその家族のQOL向 上・災害対策に向けた旅行 支援)	1,767,800	福岡県	地方都市で医療的ケア児への外出・災害対策を 行う際のサポートモデルとなる可能性を感じまし た。ノウハウのマニュアル化、対外発信による波及 効果にも期待します。

【団体名】

NPO法人エゴノキクラブ

【URL】

<https://www.egonoki.jp/>

【申請事業名】

小児がんの子どものリーダーシップ育成事業

【メッセージ】**① 団体の紹介**

エゴノキクラブは、小児がんを経験した子どもたちが秘める可能性を引き出し、困難を乗り越えて社会に貢献できる力強い存在へと成長するためのサポートを提供する温かいコミュニティです。私たちは、社会の善意を子どもたちの成果に結びつけ、エゴノキの樹が太陽に向かってしなやかに成長するように、互いに支えあっていくことを大切にしています。このコミュニティは、彼らの未来に希望と勇気を育む場所であり、彼らが社会で活躍できるようにともに歩んでいくことを目指しています。

② 今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

今回の助成により、3つの事業を実施します。一つ目は「スタディ・フレンド」です。病気の治療による学習機会の損失を補い、学ぶ喜びを再発見するために、英語のフレーズや国語の音読を楽しみながら、日本の歴史や文化に触れる課外活動も行います。二つ目は「エゴノキワークショップ」です。治療後の進学や就労に向けて、子どもとその家族に最新の情報とスキルを提供することを目指します。三つ目は「小児がん心理士ネットワークの形成」です。小児がんの領域で標準化された心理的支援が提供されるよう、公認心理師をワークショップに招き、専門的な支援を提供できる体制を整えます。

③ 事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

今回の事業を実行するにあたり、特に注力したいのは、子どもたちのニーズに合った支援の活用をサポートすることです。治療後の学びや進学、就労に向けた支援はもちろん、心理的ケアや社会制度の活用方法など、子どもたちが直面する課題に対して、効果的な対応方法を広めていきたいと考えています。また、専門家のネットワークを強化し、子どもたちの声を直接聞きながら、協力し合い、一貫したサポート体制を整えることが重要です。これにより、子どもたちが安心して未来に向かって踏み出せる環境を作り、その可能性を最大限に引き出せるよう尽力していきます。

【団体名】

認定特定非営利活動法人シャイン・オン・キッズ

【URL】

<https://sokids.org/ja/>

【申請事業名】

心のケアを軸とした長期入院治療を経験したこども達への社会復帰支援

【メッセージ】

① 団体の紹介

「小児がんや重い病気の子どもたちとご家族に笑顔と勇気を」をミッションに掲げ、エビデンスに基づいた、革新的な心理社会的支援プログラムを通じサポートする。

- 1) ファシリテッドッグ：こども病院で働くために専門的にトレーニングを受けた犬がハンドラーとペアになって病院に常勤。4病院で導入
- 2) ビーズ・オブ・カレッジ：病児が治療ごとにビーズをつなぐアート介入療法プログラム。30病院で導入。心的ケア、自己肯定感を醸成
- 3) シャイン・オン！コミュニティ：17病院に提供中の双方向配信の心のケアと学習支援プログラム、小児がん経験者の学習・キャリア支援プログラム、小児がん経験者が交流するオンラインコミュニティおよびこども企画室の運営

② 今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

患児の治療経験を医療従事者であるビーズ大使とともにビーズをつないで可視化できるプログラム「ビーズ・オブ・カレッジ」。乗り越えてきた治療を振り返ることで自己肯定感を醸造し、将来への希望をもたらす。2022年度に学習支援に直接つながる「まなびのビーズ」を開発。国内9病院で継続実施し、子どもの学びの意欲や自己肯定感を高める効果を確認した。今後は全国の導入病院（30病院）への展開に向けビーズ制作や運用体制を整備。

- 1) 「まなびのビーズ」の精査及び入院患児にむけた病院展開から社会復帰支援に向けたモデル構築
- 2) 社会復帰に向けた「ふりかえりビーズ」ワークショップでの「まなびのビーズ」を活用したプログラム開発
- 3) 患児との茶話会の実施および他団体とのネットワークから未来につながるイベントの開催

③ 事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

小児がんの治癒率は高まっているが、長く辛い治療を終えた先には様々なチャレンジが待ち構えている。小児がん経験者の多くは、治療に起因する後遺症（晩期合併症）を何らかの形で経験する。退院から日常生活に戻り、復学においても、長期入院による体力の低下や見た目の変化、学習の遅れや発達の遅れなどから上述の心理社会的困難が多様に生じる。新たな心身で社会復帰の段階にある患児に向けた支援が課題である

「まなびのビーズ」の運用体制の整備とともに、社会復帰の段階でさまざまな心理社会的な困難を抱えている患児とのつながりを作り、切れ目のない支援の実現に向けた社会復帰プログラムの開発ならびに病院と支援団体をつなぐ新たなモデル構築を目指す。

【団体名】

一般社団法人Child Play Lab.

【URL】

<https://childplaylab.org/>

【申請事業名】

病気を抱える小学生を対象にした、ライフアドベンチャープログラムのモデルづくりと検証事業

【メッセージ】

① 団体の紹介

全ての子どもたちが病気という経験を力に変えて、その子らしく生きていくことができる社会の実現を目指し活動しています。病気の子どもたちとともに歩むあそびのブランド「POCO!」では、治療期間をその子らしく過ごし、病気という経験を肯定的に捉えることができるように、①「あそび」の直接提供 ②子どもとあそびを取り巻く環境の整備の2点に力を入れて取り組んでいます。

②今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

私たちは、「病気の子どもにとって、本質的に病気を乗り越えられる環境が整備されていないこと」に課題を感じています。入院中はもちろん、退院できたとしてもその後の生活にうまく馴染めず、「自分はみんなと違うんだ」「普通じゃないんだ」と、病気が否定的な体験として心に残り続け、彼らの未来を閉ざしてしまうことも少なくありません。

そんな子どもたちが、病気という経験を力に変えてその子らしく生きていくためには、新しい人やものとの出会い・自らの意思で選択しやりぬく体験・誰かのためになるつながる、これら3つの時間が必要であると考えます。そこで、病気という体験を力に変えていくレジリエンス力、そして自らの人生の体験に自分なりの物語を紡ぎながら新たな道を切り開いていく真のアントレプレナー精神、この2つを組み合わせた力を養うプログラムを提供します。

具体的な実行内容としては以下のとおりです。前述のプログラムの内容や効果検証方法を磨くことを目的とした「実態調査」を行いながら、弊社オリジナルの絵本と工作キット『アドベンチャーBOX』を中心とした「あそびの提供」を行います。またそのような子どもたちを入院中だけでなく退院後もサポートするための基盤作りを「院内/地域でのワークショップ開催」を通じて行います。

③ 事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

昨年度学生団体から法人への一步を踏み出した私たちは、思いを形にし、初めての挑戦を積み重ねてまいりました。「子どもたちの力に本当になれているのか」「自分たちのエゴではなく本質的な事業を届けることができているのか」という問いに日々向き合い続けながら歩んでおります。

2年目となる今年度は、これまでに得られた確かな仮説と子どもたちの笑顔を糧にさらなる活動を継続していくとともに、病気の子どもたちが必要とする限り事業を継続できるように組織基盤の整備にも励んでいきます。この重要な2年目という年をベネッセこども基金様とともに迎えられることともうれしく思います。引き続きご支援ご声援のほど、よろしく願い申し上げます。

【団体名】

NPO法人 北海道こどもホスピスプロジェクト

【URL】

<https://www.h-chp.org/>

【申請事業名】

LTCの子どもと家族の状況を学びで改善する仕組みづくり～他地域展開～

【メッセージ】

① 団体の紹介

小児がんなど生命を脅かす病気と共にある子どもが、どのような制限の中で治療にあっているか、ご存じですか？病気のせいであちこち痛い。具合が悪い。重い病気だと分かっているが気持ちが沈む。抗がん剤を使った治療で、吐き気やだるさが続く。今日もお友達やきょうだいに会えない辛さ…。本来であれば、自由に遊び、学ぶ機会が、長期入院治療中の子どもたちは制限されています。私たちは、そんな治療中の子どもが、治療中であっても自由に好きなことをしたり、叶えたい目標に向かって希望を持てるような環境をつくりたいという思いで活動しています。

② 今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

私たちは、病気と共にあっても、自然のなかで遊び、体いっぱいエネルギーを感じる。小さな発見に心躍らせ、家族で感動を体験できることを大切にしています。これまでの家族アンケートでは「入院治療中ずっと病院で過ごしていたので、自然の中での遊びや学びの体験を子どもにさせることができなかつた。自分達だけでは踏み出しにくかつたけど、ここならプロのガイドさんや看護師がいてくれて安心。」というお声を多くいただきました。また、今回の助成では、これまで実施してきた地域だけではなく、他地域でも実施します。その理由は、
・これまで参加できなかった子どもと家族に繋がりたい。
・他地域でも病児やきょうだい児の特性を理解し、共に活動する仲間を増やしていきたい。
という目標があるからです。

野外活動だけではなく、冬季にはクラシックコンサートを開催。音楽を聞いて感じる様々な自分自身の感情と向き合う時間を持つことで、自分の感情を閉じ込めることなく素直に表現できるようになることを目指します。また病児ときょうだい児が、病気や、もやもやする気持ちを一旦忘れて過ごすことができる居場所、家族が同じような状況の家族がいることを実感し、孤独を感じない時間や、この集いを通じて寄り添える友達を見つけることができる居場所を、一緒につくってゆきたいと思えます。

③ 事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

生命を脅かす病気と共にある子どもが、病気のことを忘れて過ごすことができる時間。
きょうだい児が、自分の状況を友達に分かってもらえない悲しさ等から少し解放されて同じようなきょうだいさんがいることに気がつく時間。新たな友達ができる時間。
家族が、将来の不安を少し忘れて、子どもの成長を見守ることができる時間。
そして家族みんなが、笑顔で「今日は楽しかったね！」と言い合えるときをつくっていきます。
また、対象となる家族だけではなく「地域」に一緒に考え活動できる仲間を増やしていくことで、この活動を持続可能な団体へと成長させていきたいです。

日々成長発達を遂げている子どもたちに、思いっきりチャレンジできる場の提供をし続けます！

【団体名】

NPO法人ポプルワークス

【申請事業名】

病院や自宅等で療養生活を送る子どもたちの内面を豊かに育む、映像制作ワークショップ実施事業

【メッセージ】

① 団体の紹介

多様な背景の子ども・若者当事者たちが、社会の一員として大切にされ、自分らしく生きられる温かな社会の実現を目指して、メディア・教育・福祉の専門職が集まって設立した団体です。発達障がい、精神疾患、不登校などで悩みを抱える子ども・若者を対象とした『映像制作ワークショップ』や『メディアコンテンツの制作』を行っています。

代表理事の西澤は、ディレクターとしてNHKで20年間、主に子ども・若者の教育福祉分野の番組制作に携わってきました。長年私たちが現場で経験してきた映像制作のプロセスが、子ども・若者たちにとって、「自己理解力」「表現力」「コミュニケーション力」といった「生きるために重要な力」を楽しく育んでいく機会になりえると気づいたことが、この活動に注力することになったきっかけです。

② 今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

精神医療の現場で、長期入院中の子どもたちを対象に『映像制作ワークショップ』を実施します。なぜ精神医療にフォーカスするかというと、こころの問題は外からは見えづらく、特にデリケートな分野であるぶん、外の世界へ開いた活動や関わりを生み出しづらい現状があると感じるからです。

これまで、取材活動を通して、児童精神科をはじめとした、子どもたちのこころの現場に多く関わってきました。感受性が豊かで繊細であるがゆえに、しんどさを抱える子どもたちも多く、その分、自分の内面を表現できたときの喜びや成長も大きいことを感じてきました。繊細さを強みにできる機会づくりに貢献していきたいと考えています。

2024年度には、大阪市立総合医療センターの児童青年精神科で、長期入院中の10代の子どもたちを対象に、約1か月の映像制作ワークショップを実施しました。医療現場の皆さまが、子どもたちが参加しやすいように声かけや環境作りをしてくださり、温かい雰囲気の中で実施することができ、とても感謝しています。

子どもたちは、チームを組んで、映像制作のさまざまなプロセス〔企画を考えること、情報取材、インタビュー、撮影、発信すること〕を経験しました。最初はうつむいて視線を合わせることが難しく、発言をためらっていた子どもたちが、制作活動を積み重ねる中で、日に日に自分の意見を多様な形で表現できるようになり、仲間に声を掛けたり助け合ったりするようになり、毎日豊かな表情を見せるようになっていきました。そして集大成となる病院での発表会では、大勢のお客さんの前で、自分たちの言葉で堂々とメッセージや思いを発表する姿を見せてくれて、私たちも強く心を打たれました。

③ 事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

2025年度は、映像制作ワークショップを「子どもたちの退院後」にも焦点を当てた活動へと発展させたいと考えています。子どもたちが、入院中に安心できる環境で治療に取り組みながら、退院後の生活に向けた希望や具体的なビジョンを持てるようになることも、重要だと考えるためです。そこで、映像制作ワークショップを通じて、病院の中と外に仲間を作ること、温かな大人たちや社会資源と出会うことなどの要素を重視し、医療機関や地域の団体と連携しながら、子どもたちが未来へと目を向けられる機会や社会につながる機会を、創り出していきたいと考えています。

【団体名】

特定非営利活動法人にこり

【URL】

<https://nicori.org/>

【申請事業名】

法泉寺けあらぼ（医療的ケア児とその家族のQOL向上・災害対策に向けた旅行支援）

【メッセージ】

① 団体の紹介

NPO法人にこりは、「病気や障がいがあっても、いっぱい笑える毎日」を目指し、医療的ケア児やその家族をサポートをする活動を行っています。福岡県を拠点に、訪問看護、居宅介護、児童発達支援、相談支援、産前産後ケアなど多岐にわたるサービスを提供し、「できない」を「できる」に変えるための取り組みに力を注いでいます。私たちは、子どもたちが社会に参加できる機会を広げるため、地域イベントや、旅行や外出支援の可能性にも挑戦しています。

② 今回助成を受ける事業の紹介（課題、実行項目）

医療的ケア児とその家族にとって、日常の移動や旅行は大きな課題です。特に、医療機器を持参しながらの移動やバリアフリーでない環境への対応は、多くの不安を伴います。本事業「法泉寺けあらぼ」では、旅行を通じて家族が災害時に直面する課題をシミュレーションしながら、楽しく災害対策を含め学べる体験を提供します。

- ・医療的ケア児とその家族が安全に旅行できるよう、専門スタッフによる移動サポートの実施。
- ・バリアフリーでない宿泊施設を活用し、実践的な移動・対応訓練を実施。
- ・実践で得られた知見を基に、災害対策や、旅行に役立つ情報を公表、発信。

③ 事業を実行していく上で、特にポイントと思うことや注力したいことを含んだ抱負

「法泉寺けあらぼ」では、単なる旅行支援にとどまらず、災害時にも役立つ知識や経験を家族全体で楽しみながら身につけることを目指します。旅行中の体験を通じて、移動や環境への適応力を高め、災害時に即応できる力を養います。また、地域住民や観光施設の方々との交流を通じて、医療的ケア児があたりまえに地域の中で過ごしていく環境づくりを進めていきます。

得られた成果や知見を共有し、全国の医療的ケア児やその家族が、いっぱい笑って、いっぱい遊べる。そんなあたりまえの毎日をすごせるよう、取り組んでまいります。